

東京都立産業貿易センター指定管理者

平成29年度評価委員会

平成30年8月2日（木）9：56～

東京都立産業貿易センター台東館

東京都立産業貿易センター指定管理者平成29年度評価委員会

平成30年8月2日

午前9時56分 開会

【伊藤課長代理】 定刻前ではございますけれども、本日、委員5名の出席を確認させていただきました。

本日はお忙しい中、また、非常にお暑い中に、台東館までお越しいただきまして、本当にありがとうございます。

では、これより、東京都立産業貿易センター指定管理者の平成29年度評価委員会を開催いたします。

まず、開催に当たりまして、東京都産業労働局商工部経営支援課長の川崎より一言ご挨拶を申し上げます。

では、川崎課長、お願いいたします。

【川崎課長】 本日は皆様、お暑い中、また、お忙しい中、本日もお越しいただき大変ありがとうございます。

産業貿易センターは、平成18年度から指定管理者制度を導入いたしまして、指定管理者の評価を行いますのも、今年で12回目となります。この間に、産業貿易センターの運営環境は施設整備などに伴いまして、大きな変化がございました。

台東館につきましては、平成26年度に大規模修繕を行いますために一時休館をし、平成27年4月にリニューアルオープンをいたしました。その半年後、平成27年10月には、浜松町館を休館いたしました。竹芝地区の開発事業とあわせて、建てかえ工事を行っているところでございます。

このため、今回、評価の対象となります平成29年度につきましては、台東館1館のみの管理運営業務となります。

なお、浜松町館の指定管理者につきましては、先般、指定管理者選定委員会でのご審議と、東京都議会での議決を得まして、7月1日付で、台東館の指定管理者と同じ、公益財団法人東京都中小企業振興公社を指定いたしました。

既に、秋葉原に「浜松町館開設準備室」を設置いたしまして、準備業務を開始しておりますことをご報告申し上げます。

ここで、改めて、評価の流れをご説明させていただきたいと思っております。

指定管理者から提出のありました事業報告書と、この後に行います指定管理者との質疑応答を踏まえまして、あらかじめ事務局で策定をいたしました「一次評価」をもとに、委員の皆様にご審議をいただき、委員会としての「二次評価」を決定をしていただきたいと思います。

この二次評価に基づきまして、東京都における最終的な「総合評価」を決定し、後日、東京都公式ホームページにより、評価結果を公表いたします。

なお、評価結果を公表いたします際には、本日の委員会の議事につきましても公開することとなっておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

さて、本日もご評価いただきます平成29年度の状況でございますが、浜松町館の休館に伴い、既存のご利用者をできるだけ台東館で受け入れるよう努めました結果、引き続き非常に高い稼働率となっております。

そうした状況の中で、指定管理者には、事故やトラブルが発生しないよう、適切に施設の管理運営を行いますとともに、一層の利用者サービスの向上にも取り組んでいくことが求められております。

本日の委員会は、こうした点を踏まえまして、指定管理者による管理運営状況について客観的な評価を行っていただきますとともに、今後の利用者サービスの改善につなげていくことが、重要な目的であると考えております。

ぜひ、委員の皆様におかれましては、こうした点から、専門分野を踏まえた活発なご意見を賜りたく、よろしく願いをいたしたいと思っております。

それでは、これより、議事進行を務めさせていただきます。続きまして、委員会に先立ち、私より委員のご紹介をさせていただきます。

埼玉学園大学大学院、経営学研究科、特任教授、加藤秀雄委員でございます。

【加藤委員】 加藤です。よろしくお願いいたします。

【川崎課長】 中小企業診断士、一般社団法人東京都中小企業診断士協会、副会長、池田安弘委員でございます。

【池田委員】 池田です。よろしくお願いいたします。

【川崎課長】 公認会計士、あずさ監査法人パートナー、小林篤史委員でございます。

【小林委員】 小林でございます。よろしくお願いいたします。

【川崎課長】 公益財団法人大田区産業振興協会、事務局長、佐藤國治委員でございます。

【佐藤委員】 佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

【川崎課長】 東京都産業労働局商工部、商工施策担当課長、岡野守治委員でございます。

【岡野委員】 岡野でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【川崎課長】 続きまして、事務局を紹介させていただきます。

東京都産業労働局商工部、経営支援課、伊藤でございます。

【伊藤課長代理】 伊藤でございます。よろしくお願いいたします。

【川崎課長】 本日の委員会の議題の第一は、委員長を選出でございます。委員長については、規定により、委員の互選により定めることとなっておりますので、委員長のご推薦をお願いいたします。

【岡野委員】 中小企業論を初め産業振興に造詣が大変深く、また、そうした関係の数々の委員をご歴任されている加藤委員が適任かと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

【川崎課長】 ただいま、岡野委員より、加藤委員を委員長にということでご推薦がございました。

それでは、異議のないということでございますので、加藤委員に、委員長にご就任いただくということでお願いをしたいと思います。

それでは、議事進行は委員長が行うことという形でお願いをしたいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

【川崎課長】 では、よろしくお願いいたします。

【加藤委員長】 それでは、皆様のご推薦でございますので、委員長として議事進行に努めてまいりたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、早速でございますけれども、議事に入りたいと思います。

まず、本日の資料でございますけれども、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

【川崎課長】 まず、お手元に配付しております資料の確認をさせていただきます。

資料1といたしまして、当委員会の委員会名簿をお配りしてございます。また、資料2といたしまして、平成29年度の事業報告及び一次評価の概要をお配りしてございます。資料3といたしまして、事務局で作成をいたしました一次評価表をお配りしてございます。資料4といたしまして、指定管理者が提出をいたしました事業報告書をお配りしてございます。資料5といたしまして、ご参考までにお配りをいたします補足説明資料がございます。

以上、全ての資料がお手元にありますでしょうか。

それでは、資料の説明をさせていただきます。まず、資料2の事業報告及び一次評価の概要をごらんください。

資料上段の左側に、一次評価の概要をまとめてございます。評価のポイントにつきましては、後ほどご説明をいたしますが、結論を先に申し上げますと、一次評価の合計点を53点として、4段階評価の上から2番目のランクに当たります「A+」といたしております。資料の下段及び右側には、展示場の利用状況、展示室の催事件数と入場者数、事業収支などの実績を取りまとめてございます。

特筆すべきは、資料下段の展示場利用状況の表に記載してございます稼働率でございます。平成29年度は前年度よりも下がったとは言え、78.9%という非常に高い水準となっております。その結果、右側中段の事業収支の表にありますとおり、事業計画と比べまして収入額は約2,000万円の増、事業収支差額は約2,700万円の増となっております。また、東京都への納付額も400万円余りの増となっております。

次に、資料3の一次評価表をごらんください。評価の方法につきましては、事前に事務局よりご説明をしておりますので、ここでは評価のポイントについてご説明を申し上げます。

指定管理者が応募時に策定いたしました「事業計画書」を踏まえて、全部で30個の評価項目を設定をいたしております。事務局においては、そのうち9個の項目を「水準を上回る」として、20個の項目を「水準どおり」として、1個の項目を「水準を下回る」といたしました。

水準を上回るとしました項目は、人材育成の取り組み。施設利用者の準備作業等の調整。地域や地元住民との良好な関係の構築。浜松町館再整備への貢献。環境配慮への取り組み。防災、防犯への配慮及び緊急時対策。収支状況。展示室の利用状況。自主事業の実施、都の他施策との連動性、協調性など、以上の9項目でございます。

逆に、水準を下回るとした項目は、会議室の利用状況の1項目でございます。

続きまして、資料3の最期のページをお開きください。全体を通しまして、特に評価すべき点を、右下の特記事項の欄に記載してございます。

まず、展示室の稼働率が、事業計画を上回る高い水準となりました中で、荷さばき駐車場や荷物用エレベーターの使用をめぐる利用者間の調整を行います「利用者調整会議」の実施日数をふやすなどの取り組みにより、円滑な施設運営を行っております点を、高く評価してございます。

また、利用者及び施設の安全を守りますために、全職員が上級救命技能認定の資格を取得いたしますとともに、洪水対策マニュアル等の防災マニュアルを整備するなどの、積極的な取り組みを行っております点も、高く評価することができると考えております。そのほか、利用者の声に応じて、サービスの改善や充実にも努めており、利用者アンケートにおきましても、非常に高い満足度を得られているところでございます。

以上によりまして、事務局におきましては、合計で53点という評価をいたしました。

もしも、全ての項目が「水準どおり」でありましたならば、合計点は41点となるところでございますが、これを標準点といたしますと、53点という数字は標準点の1.29倍となりまして、全庁

的な評価ルールに基づきまして、「A+」という一次評価をいたしました。

なお、ただいまご説明をいたしました評価の内容につきましては、審議の途中段階であり、まだ指定管理者に伝えることは適当ではございませんので、この後に行います指定管理者との質疑応答の際には、ご留意くださいますよう、よろしくお願いいたします。

続きまして、評価の根拠資料であります資料4の事業報告書について、概要をご説明いたします。

事業報告書のうち、様式1に平成29年度の事業実績をまとめており、各項目の根拠資料として、様式2から15が添付されております。

また、取り組みの具体的な内容の説明資料として、①から⑩までの番号を振っております、附属資料を添付してございます。なお、附属資料の末尾には、別添資料として、文章だけでは伝わりにくいと思われる取り組みについて、写真を用いてお示しをしてございますので、ぜひ、ご参照ください。

最後に、資料5の補足説明資料についてご説明をいたします。こちらは、委員の皆様の評価の参考となりますよう、事業報告書を補うために、事務局で作成いたしました資料でございます。

1ページから2ページ目までは、台東館の利用実績について、過去3年間の推移をグラフ化したものでございます。1ページ目の左側が、予約受付順位の構成比別の推移でございます。このうちの第1順位と第2順位が、中小企業及び中小企業団体の利用をあらわしてございます。

以下、1ページの右側が利用目的別の推移、2ページ目の左側が利用者の業種別の推移、2ページの右側が利用者の分類別の推移となっております。

3ページは、展示室及び会議室の稼働率の推移をグラフ化したもので、20年度から29年度までの10年間の実績を載せております。

以上が、配付資料の説明となります。

最後に、これらの資料の取り扱いについて、一点、お諮りをいたします。

本委員会における配布資料は、「東京都立産業貿易センター指定管理者評価委員会設置要綱」におきまして、原則として公開をすることとされており、非公開とする場合は、委員会の議決が必要であると定めております。

本日の配布資料のうち、事業報告書の附属資料につきましては、資料中に具体的なご利用者名や、指定管理者が行いました契約情報、その他、指定管理者の経営ノウハウにかかわる情報が含まれておりますことから、委員会の議決を得まして、非公開とさせていただきたいと存じます。

私からの説明は、以上でございます。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

【加藤委員長】 ありがとうございます。

ただいま事務局からご説明がございましたけれども、配付資料の資料NO. 4でございませうか、附属資料の資料①から⑩、この別添資料も含むんですね。その部分につきまして、非公開とすることについて、ご意見はございますでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

【加藤委員長】 それでは、事務局提案のとおり配付の資料の一部を、非公開として取り扱うことといたします。

それでは、続きまして指定管理者職員に入室していただき、先ほどの事務局からの説明及び事業内容についての質疑に移らせていただきたいというふうに思います。

【川崎課長】 それでは、ただいま呼び込みますので、少々お待ちください。

(指定管理者職員 入室)

【加藤委員長】 それでは、事務局からご紹介をお願いしたいと思います。

【川崎課長】 それでは、ご紹介をさせていただきます。

平成29年度、東京都立産業貿易センター台東館の指定管理者である、公益財団法人東京都中小企業振興公社、永野欣彦ゼネラルマネージャ兼台東館館長でございます。

【永野館長】 永野でございます。よろしく願いいたします。

【川崎課長】 続きまして、新井賢太企画管理部企画課企画係長でございます。

【新井係長】 新井でございます。よろしく願いいたします。

【川崎課長】 続きまして、下村隆治台東館総務経理グループチーフでございます。

【下村チーフ】 下村でございます。よろしく願いいたします。

【川崎課長】 以上で、指定管理者職員のご紹介を終わります。

【加藤委員長】 はい。では、質疑応答に入らせていただきたいと思います。

先ほどの事務局からの説明及び事業内容に関しまして、ご質問はございますでしょうか。どなたからでも結構でございます。

【佐藤委員】 平成29年度の資料2ですね。これを見ますと、平成29年度利用者アンケート結果では、総合評価で「大変満足」と「満足」を合わせますと85%を超える方が満足と回答されています。さらに、「どちらかといえば満足」を加えますと97.8%、もう98%の方が満足と回答されているということで、非常に適切な運営がなされていると思われます。この辺の評価をもらっている要因を、ちょっと簡単に説明いただければと思います。

【永野館長】 一つは、新規のご利用者様には丁寧なご説明を、それと、構造上の問題ある搬出入の問題がございしますが、それに対して2カ月前に調整会議という形で丁寧にご説明しているということでございます。アンケート結果では、高い評価を得ておりますけれども、実際問題潜在的には、ご不満の方もいらっしゃると思うんです。ただ、皆さん、既存のご利用者様が多いので、ご理解をいただいているということで、こういう結果が出ていると思います。ただ、それに甘んじることなく我々はよりいいサービスを目指して、一番は丁寧な説明、ご不満点をすい上げることが大事なことでと思っていますので、それを励行しているということが大きな問題につながっていないというふうに考えております。

【加藤委員長】 それに関連するんですけど、今おっしゃった不満と思われる方がいらっしゃるのではないかと、どんな不満が予想されますか。

【永野館長】 私たちが、利用者の立場で考えた場合、やはり搬出入のエレベーターが2台しかない、それも大きくない、大小あるんですけど、それで時間が決められた中で搬出しなければいけない搬入しなければいけないということは、非常にもう手間がかかることで、皆様、展示会をやられに来ているわけで搬出入に来られているわけじゃないので、そういった余計な仕事がふえてしまうということは、やはり潜在的な不満というふうに思われていると思います。

【加藤委員長】 よろしいですか。

【佐藤委員】 はい。ありがとうございます。

【加藤委員長】 ほかに、いかがでございましょうか。

【小林委員】 資料4の、事業収支のところなんですけれども、事業費のほうが計画よりも削減ができていうところ、内容としては光熱水費の削減の部分と、あと、清掃も削減がされているというふうに認識をしているんですけども、このあたりの、下のところに光熱水費は電力契約の見直しですとか、大規模改修の設備更新というところではございますけれども、ちょっとその辺、もう

少し具体的に、どのように削減がされたのかというところを教えてくださいいただけます。

【永野館長】 まず一番は、光熱費が特に電気関係ですけれど、約1,000万円ほど削減できていると思います。機器が新しくなったということと、それと、デマンドコントロールをするようになって、ピークカットをしていること。それから、それ以外に新電力を使っていることです。基本電力を低減させていること、そういったところで一番は電気関係の削減だと思います。清掃の部分については、これはやらなければいけないものですから、そこを削減した場合、もうサービス低下になってしまいますので、結果、清掃関係が少なくなっているということだと思います。一番は、光熱費です。

【小林委員】 わかりました。

【加藤委員長】 ほかに、いかがでございましょうか。

【池田委員】 資料の中に、ホームページのアクセス件数というのがあって、28年度に比べると29年度は25万件のマイナスということですので、これは構造的には利用者数の減少みたいなことに、長期的にはつながってくるかなという気はして、ちょっとここは懸念しているんですが、何か、こういう理由でアクセス数が減ったというみたいなのはあるのでしょうか。

【永野館長】 これは単純に、浜松町館が閉館しているということで、浜松町館へのアクセス数が減っているということで、それで低減しているということでございます。

【池田委員】 なるほど、わかりました。

【加藤委員長】 いかがでございましょうか。

【岡野委員】 なかなか業界的にも人手不足だったり、非常にお忙しいという中で、やはり職員のモチベーションを維持して、非常にサービスの向上につなげていくということ、とても大事だと思うんですが、人材の育成、あるいは、モチベーションの維持、向上というところで、特に特筆すべきところがあれば教えてくださいいただけます。

【永野館長】 正直に言いますと、この展示会業界というのは歴史が短いですから、展示会業界で働いていた方を採用するということが、なかなか難しいところでございまして、まずは、展示会に出展されたことの経験のある方、これを中心にまず採用させていただいています。つまり、利用者目線で展示会場を運営できる方、あるいは、もう一点は、営業を経験されている方って多いんですけども、接遇ですね。お客様と直接、エンドユーザと接触した経験がある方という方も、非常に少ないので、そういう方を採用するということが、もしくは、そういったご経験のない方は、特に接遇に関しての日常的なOJTを繰り返して訓練を行っているということでございます。一番そこがポイントをおいて育成している部分でございます。

【岡野委員】 何かスキルアップとか、資格とか、資料にちょっと書いてあるかもしれませんが、そういった面は何か何かありますか。

【永野館長】 2年前ほどから、サービスというのが我々は非常に大事ですので、トータルのサービスができるためにはやはり知識がなければいけないということで、イベント業務管理士、この資格を奨励して取るようにしております。昨年度までで5人、今年も受けるということで、プロモーショングループを中心に全員が取れるような形で、すすめております。それから、我々は中小の展示会場ですけども、やはり、MICE業界全体の世界ということを知ってもらって、作業をしていかなければいけないというのがポイントだと思っていますので、MICE関連のセミナー等は必ず参加するような形をとっております。一つのセミナーということではなくて、幅を広げたセミナー参加、あるいは資格。ほかではなかなかやられていない資格もございます。例えば、ボランティアコーディネーターというものもとっていただいたりとか、これはどういう意味かと言いますと、帰宅困難者一時滞

在施設の指定にされていますので、我々14人だけでは、もし、帰宅困難者が生じた場合、コーディネートできませんので、ボランティアコーディネーターの資格をとっていただいたりとか、あるいは、認知症のコーディネーターをとっていただいたりとか、そこら辺は、少人数で取ってもらっているんですけども、そういったちょっと幅広くいろんな資格をとって、多角的な方面からサービスができるような形、これを念頭に置いて作業をしております。

【岡野委員】 ありがとうございます。

【新井係長】 具体的には、こちらの資料8のところに、台東館の職員が保有している資格一覧を記載しております。また、それに伴って研修に参加している者もございますので、次のページに記載させていただいているところでございます。

【永野館長】 一つ、一番言いたいことを言い忘れてまして、昨年度、救命技能認定でAEDというのがございますけれど、その上級を全員獲得しまして、その結果というのを書いてないです。けれども、消防総監からも感謝状をいただきました。上級を全員というのはなかなかない。

【加藤委員長】 上級とかあるんですか。

【永野館長】 普通、皆さんがやられるのは初級で、上級を取られると血をとめたり、止血ですかそういったところまでやるような、上級というのがございます。

【加藤委員長】 じゃあ、個人的に私が受けたのは上級じゃないほうですね。

【永野館長】 まず、初級を受けていただいて。

【加藤委員長】 ほかに、いかがでございましょうか。

【小林委員】 おおむね、いろいろな目標ですとか計画は上回れているのかと思うんですけど、数少なく下回っているところが、会議数の利用状況が計画よりも下回っているところなんですけれど、このあたりはどのように分析されていて、今後どういう対策をとられていく予定なんでしょうか。

【永野館長】 私ども、この会議室が約30名ほどの会議室が二つございまして、ほとんどの利用目的が展示会場の控室的な使われ方が多い。もちろん会議のために使われている部分もございまして、どちらかという補助的な役割、その展示会の内容によって、会議室を使われたり使われなかったりということで、年々若干ですけど、上下があるというのが現状だと思います。もちろん、本来の使い方を我々もう少し積極的にということもございまして、今、利用者目線で考えた場合、その内容によっては区民会館をお使いになったほうが利用者にとっていい場合がございます。そういう場合は、逆に区民会館をご紹介したりとかということもしておりますので、台東館だけということじゃなくて、全体を考えて利用者にとってどちらをお使いになったほうがいいのかなどの作業をしておりますので、年によって上下が出てしまうということもございます。

【加藤委員長】 紹介するということは、条件がかなり違うというふうに理解してよろしいですか。

【永野館長】 区民会館のほうが広い場所がある。あるいは、料金的に安い。使用目的によって、例えば、30名ほどの会議室に30人ぎっちりやられるよりは、40人ぐらいのスペースでやられたほうがいいんじゃないですかとか、そういったことです。

【加藤委員長】 そういう意味では、利用者の目線に立って運営されていらっしゃるということでございますね。

ほかにいかがでございましょうか。

私のほうから。例年稼働率がいつも話題になってしまうんですけども、今回も非常に高い稼働率、前年に比べてというか、そういう意味では少し下がっておるわけですけど、それでもこういった稼働率でおやりになるというのは、非常にご苦勞があったのではないかなというふうに思

っておるんですけども、そのご苦労なんかも少しご披露いただければと思うんですが。

【永野館長】 冒頭にお話しした、やはり利用者にとって満足度がいく利用状況じゃないということが一番ということと、それとやはり安全・安心という面がございます。あと、ご存じのとおり、この周辺が住宅街の中にあるということで、稼働率が高いということは来場者も多いと。通常ですと40万人前後だったのが、この稼働率が上がることによって46万人ぐらいになると。この周辺でお並びになるとか、あるいは公園で人があつまってしまうとかいうことで、一番苦労ということで言うと、やっぱり周辺対策です。だから、来場者が多いという見込みがあるときには、周辺にご挨拶に行ったりとか、これが効果があるかどうかわかりませんが、例えば、つまらない話かもしれないですけど、我々が昼食をとるときには、周辺のお店で昼食をとるようにしているとか、一緒に生活していますよという生活感を出しながら、ご協力を得ているというところが一番目に見えない苦労といえば苦労かもしれないです。

【加藤委員長】 そういう意味では、高いほどいいのかどうかよくわからなくて、実際には本当に過去の数字で言ったら70%弱ということで推移しているのがほとんどでございますよね。おっしゃった安心・安全という面からすると、こういう目標は別にして、実際に運営上で適切だなと思われるというのは、無理をしますといろんな不都合が起こるのかなと思っておるところでございますけれども、それはいかがなんでしょうか。

【永野館長】 数字ではちょっとあわせない部分がございます。というのは、搬出入が重ならない稼働であれば、そんなに問題ないわけです。そういったことはあり得ないわけで、私の感覚で言いますと、80%を超えるとちょっと無理がかかるかなと。

【加藤委員長】 そうですか。そうすると、今、78ですから、そういう部分はまだいけるというような感じで思っておられるのですか。

【永野館長】 これを言うと、またしゃべると来年が難しくなっちゃうんですけど。

【加藤委員長】 ハードルが高くなっちゃいますが。

【永野館長】 55日ほど、29年度は予約不能日というのを設定させてもらったんです。その日に予約が入ってしまうと、皆様にご迷惑がかかるという日にちを決めて、55日ほど最初から予約を受けないという日にちを決めた結果が78.5という数字です。もし、それを、55日オープンにした場合、どうなったかというところと80%を超えたという。これは計算上ですけども、という結果になっております。ただ、じゃあ、84だった一昨年はどうだったかと言いますと、それは、運も重なりまして先ほど言いましたその、搬出入がうまく重ならない状態でうまく入ったのが一昨年。去年はある程度意識をして予約不能日というのを設定させていただいて、設定したのが昨年度の数字というもので。それでも精いっぱいというふうには言いたいんです。

【加藤委員長】 非常にハードルの高いレベルをお考えになっていらっしゃるんだなというふうにご受けとめたわけなんですけれども。

ほかにはいかがでございますでしょうか。特によろしいでしょうか。

【池田委員】 毎年、自主事業をすごく高く評価をさせていただいているんですけども、自主事業を企画しているときの企画ルールとか、狙いとか、こういう点で皆さんの組織の中で自主事業を企画して実施して、最後、検証しているんですというところが、結果はわかるんですけども、過程が見えないので、そこだけちょっとご紹介いただければと。

【永野館長】 具体的に言うと、昨年だと「くらしのフェスタ」。

【新井係長】 去年初めて「東京くらしのフェスティバル」という形で、自主企画事業を実施させ

ていただいたんですけども、台東館と本社機能の連携で、中小企業を支援していくというのが公社の強み、また、台東館の強みでもありと考えておりますので、コンセプトとしては全ての公社職員が企画に携わる。例えばなのですけれども、なでしこが選ぶ五選とかいう形で、公社の職員、女性職員が展示会に出品する商品を実際に使ってみて、それに対してレビューするみたいな形でやらせていただいて、公社、台東館含めて一丸となって自主事業を運営していくというのは強く意識をしているところでございます。

【池田委員】 ここに出展された方たちというのは、販路拡大ができてくると、常時展示会場として使っていこうかなと思ってくれる団体であったり、企業であったり、特徴のある方たちなわけですから、この方たちに対する何かサポートも一生懸命されているみたいなので、そこはどうなんですか。

【新井係長】 サポート。

【池田委員】 セミナーとか。

【新井係長】 事前に、出展になれていない企業さんもいらっしゃいますので、事前に説明会のほかに、こういった形で展示をしたらどうかというような講師の先生を呼んで、ご紹介をしているところでございます。去年初めてということで、1回だけ行ったんですけども、30年度はさらに強化して、3回事前に勉強会を実施して出展者様にとっても実力をつけていただくというか、アピールする力をつけていただく機会にもしていきたいというふうに考えております。

【永野館長】 あと、くらしのフェスタに出展していないで、うちの台東館をご利用なさっている方も、そのセミナーにはお呼びして、出展の効果的な仕方ですとか、そういうのも参加していただいて、逆にくらしのフェスタにも興味を持っていただくと、そういった面からも作業をしております。

【池田委員】 ありがとうございます。

【加藤委員長】 よろしいですか。

【池田委員】 はい。

【加藤委員長】 ほかにご質問はございますでしょうか。

【岡野委員】 きょう、1階に入ってきたときに、展示コーナーといいますか伝統工芸品のコーナーを持っていただいていますか、評判とか、ちょっと置いてみて感想とかいかがでしょう。

【永野館長】 思いのほか評判がいいです。狭い場所で、ただ置いてある展示になってはいけないというのが最初から懸念していたところなんですけれど、1階というのはたまる場所なので、エレベーターを待っている間、興味を示していただいた方がよくごらんになっていらっしゃいます。それをどういうふうにはかったかと言いますと、パンフレットを置いてありますけれども、パンフレットが2カ月で半分ぐらいなくなって、1年分のパンフレットを置いたつもりが、それで追加で増刷した経緯から判断致しました。ちょっと我々も、より緊張感を持ちましてずっとあのままではいけないということで、この11月にまた内容を変えて、台東区と共同でやっておりますので、台東区と今、再度また打ち合わせをし始めまして、目先を変えていこうとしております。あと、もう少し発信力を将来的にはつけていきたいと思っております。一応、今、パンフレットにはQRコードをつけて、ここはどこでつくられているのかとか、どこで体験学習ができるのかというのがわかるようにはしてあるんですけども、もう少しちょっと知恵を使ってやっていきたいなと考えております。

【加藤委員長】 個人的には大変興味があるところでございます。

バタバタときょうは入ってしまいましたので、余裕をもって見ておらなかったもので、帰りに見せていただきます。

ほかにはよろしいでしょうか。

(「なし」との声あり)

【加藤委員長】 それでは、質疑応答につきましては、以上とさせていただきます。指定管理者職員の方は、ここで退出いただきます。どうもありがとうございました。

(指定管理者職員 退室)

【加藤委員長】 では、先ほどの事務局からの説明、質疑応答を踏まえて、評価委員会としての評価をまとめてまいりたいというふうに思っております。

まずは、事務局から一次評価としまして、「A+」という評価が示されてございます。また、指定管理者の方がいらっしゃる場所でのご質問を含めて結構なんですけれども、ご意見をいただければと思いますけど、いかがでございましょうか。

【佐藤委員】 最初に申し上げたように、利用満足度がかなり高く、利用者の方に評価されていると理解されると、「S」でもいいぐらいなところでの感覚はあるんですけども、53点というのは基準から言うと「A+」ということなので、よろしいかなというふうに考えております。

【加藤委員長】 内容的には評価だけれど、これ基準がそうだということですね。ほかにいかがでございましょうか。

【池田委員】 結構だと思います。

【小林委員】 私も全体的なところは、違和感ございません。

【岡野委員】 安全・安心の面はとても大事だと思うんですが、館長みずからの言葉、しっかりしているなという熱意が伝わってきました。問題ないと思います。

【加藤委員長】 それでは、皆様方から高い評価をいただいておりますので、先ほどの一次評価(案)というものの、異議ないようでございますので、本評価委員会での評価につきましては、「A+」といたしたいと思います。

本日の議題につきましては、以上でございますけれども、これまでの議事、あるいは、そのほかの内容につきまして、質問等はございますでしょうか。特によろしいでしょうか。

(「なし」との声あり)

【加藤委員長】 それでは、議事が終了いたしましたので、進行を事務局のほうへ戻させていただきます。

【川崎課長】 加藤委員長、どうもありがとうございました。

以上をもちまして、東京都立産業貿易センター指定管理者平成29年度評価委員会を閉会とさせていただきます。

長時間のご審議、大変ありがとうございました。

午前10時39分 閉会

—了—